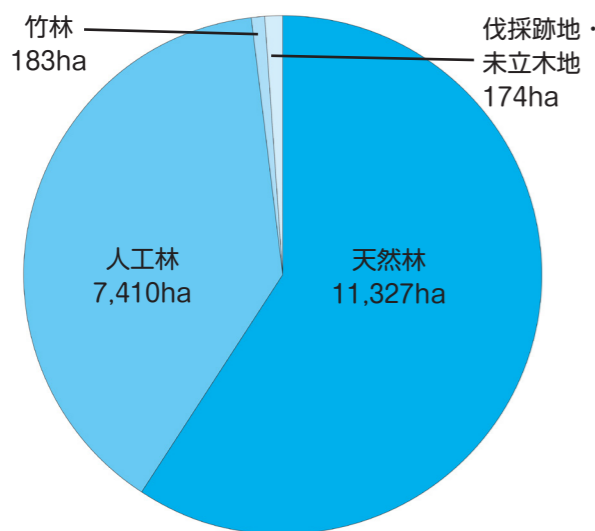


おばまの森林

森林面積

※福井県統計年鑑より抽出

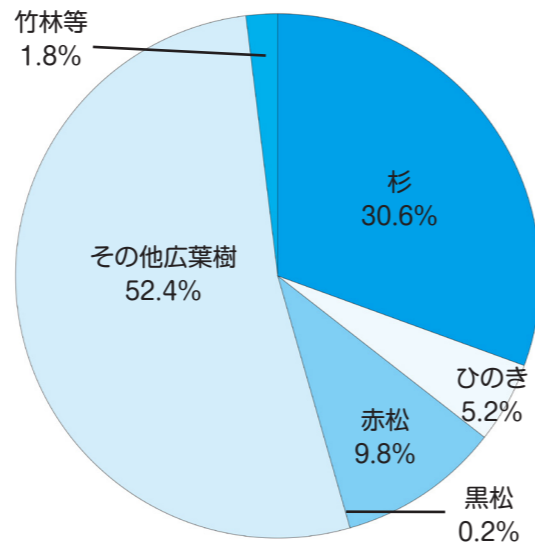
小浜市の森林面積は 19,094 ㌠でそのうち天然林が 11,327 ㌠、人工林が 7,410 ㌠、竹林が 183 ㌠、伐採跡地・未立木地が 174 ㌠となっています。



木の種類と割合

※市森林簿より抽出

森林の木の種類を見ると、杉が 30.6%、ひのきが 5.2%、赤松が 9.8%、黒松が 0.2%、その他広葉樹が 52.4%、竹林等が 1.8%となっています。



森林が果たす役割

森林は、私たちが考える以上に、人々の生活と深く結びついています。森林が与えてくれる恵みについて、紹介します。

森林は、水を守り山崩れを防ぐほか、多様な動植物を育み、木材などの林産材を供給し、二酸化炭素を吸収して地球温暖化を防止するなどさまざまな働きをしています。私たちの暮らしに欠かせない大切な役割を担っています。



1 水を守り、土と山を守る

葉や木や根、そして地面に落ちた腐葉土などに水を貯めることで、洪水や土砂崩れ、山崩れを防ぎます

2 地球の大気を守る

空気中の二酸化炭素を吸収し、酸素を排出することによって地球温暖化を防止します

3 生物の多様性を守る

微生物から高等生物まで、多種多様な生命を支え、貴重な遺伝子資源を守っています

4 たくさんの有効な物質を守る

木材はもちろん、きのこなどの食糧、木の抽出物質など、有効な物質を供給してくれます



5 快適な環境をつくる

さまざまな汚染物質や騒音を吸収し、景観を保ち、都市の温暖化を緩和してくれます



6 人に安らぎを与える

森林浴や散策、レクリエーションの場として、森林は大きな役割を果たしています

7 文化を支える

森林の景観は、私たちの自然観を形成し伝統文化を支え、環境・自然教育の場を提供します

森林を守る



■問い合わせ 農林水産課 ☎内線286

市の面積の約8割を占める森林は、豊かな水を育み、空気をきれいにし、土砂災害を防ぐなど、私たちの暮らしに多くの恵みをもたらします。

私たちの先人は、山に木を植え、大切に守り育ててきました。しかし、木材価格の低迷や外材の輸入などにより林業が衰退し、放置された森林や荒廃した森林が増加しました。

また、近年、局地的な集中豪雨の頻発や地球温暖化など、解決しなければならぬ新たな課題も多く発生しています。

私たちの生活にさまざまな恵みをもたらしてくれる豊かな森林を次世代に引き継いでいくため、森林を守り、森林資源を活用していくことが大切です。

今回は、森林を守る人たちやその取り組みなどについて紹介します。地球温暖化防止にも貢献している森林のこと、皆さんもちょっと考えてみませんか。

森林を守る取り組み

現在、森林を守る取り組みは、その作業の9割が間伐です。
 間伐を行うことで、森林を保全・育成し、伐採した木材は市場で市売りしたり、集成材工場やチップなどに活用されています。
 そのほか、小中学生や高校生、地域の人などと連携した植樹活動を通して、市民のみなさんに森林の働きや大切さを知ってもらい、森林への関心を深めてもらっています。



市場での市売り



間伐作業



植樹活動

豊かな森林を育てる「間伐」

間伐とは、育成する木を伐採し、残った木の成長を促進する作業です。木と木の間隔が広くなり、根の張りが促進され、災害に強い森林になります。また、太く健全に育つので、木材としても有効に利用できます。逆に、間伐をしないと、日光が当たらず下枝が枯れ、十分な光合成ができないため、幹が細く、根の張りも弱くなり、森林としての機能が低下します。

森林を守り育てるために

森林を、健全で活力ある状態で保つには、間伐などの適切な手入れが欠かせません。でも、間伐された木材が山中に切り捨てられたままだと、それが原因で災害が発生する可能性もあります。市では、今後も計画的な伐採・搬出と木材の効果的な利用を推進していきます。

また、私たち一人ひとりが森林に親しみ、森林を守る意識を高めることが大切だと考えます。市では、市民のみなさまに毎年春の「緑の募金」にご協力いただき、市内での苗木配布などの緑化活動や東日本大震災の被災地域での森林整備・緑化などの支援に使わせていただいています。

今後も、森林を守り育てるための活動にご支援・ご協力をお願いします。



農林水産課 中 主事

森林を元気にする

林業で地域の活性化

東京からUターンして林業に従事している、れいなん森林組合（神宮寺）の岡登志郎さん。林業の仕事に就いたいきさつから林業の現状、今後についてお話を伺いました。

林業の仕事に就いたきっかけは？

以前は、東京の空調メーカーで営業の仕事をしていました。34歳の頃、会社がグローバル化で海外進出を始めた時期で、海外への赴任もあり得ることとなったとき、家庭のことなどじっくり考えた結果、転職することに決めました。

山に囲まれた中名田で生まれ育ったという親しみと、自然相手の林業という世界で技術を習得すれば、故郷で役立つ機会もあるのではないかとこの職業を選択する決め手になりました。

森林の現状は？

木材価格低迷による意欲低下や、不在地主の増加などにより、機能の維持が厳しい状況です。

今後の林業は？

従来用途に加え、集成材・合板・魚礁・土木資材・バイオマス燃料などといった多用途化が進められています。森林の環境機能も評価されていますので、今後が暗いとは思っていません。山間集落活力維持の面でも踏ん張らなければならない業界と思っています。

やりがいとは？

手入れの遅れた森林を整備し、見える山になったのを見るのは気持ちいいですね。森林資源を有効に活用してもらうには、安定的・効率的生産が求められますので、現場従事者もさまざまな工夫が求められますが、うまくいったときは達成感があります。山をまわってあれこれ考えるのは割と苦になりません。山の仕事が好きなのだと思います。



岡 登志郎さん (48歳・上田)

樹木のお医者さん

皆さんは「樹木医」をご存知ですか？一言で言うと木のお医者さんのことですが、この資格を持ち、樹木を元気にしている、れいなん森林組合の池上成志さんに樹木医についてお話を伺いました。

樹木医とは？

巨樹、名木などの文化財をはじめとする樹木、緑地、森林などの保全、樹木文化の継承・発展とこれらの普及啓発に関する活動などを地域社会と連携して行っています。平成3年に設立された制度で、現在、全国に約1800人、県内では10人います。（嶺南では2人）

樹木医になるには？

樹木の診断・治療業務経験が7年以上の人が、(財)日本緑化センターが行う資格試験に合格し、樹木医として登録されなければなりません。

具体的にどのような仕事ですか？

庭木や神社などの樹木、天然記念物に指定されている樹木を、管理者からの依頼に応じて診断・治療をしています。

診断・治療とは？

まず、樹木の症状が病気によるものなのか、環境によるものかなど原因を究明します。そして、外科的処置や土壌改良など、その原因に見合った治療や管理指導を行います。樹木は動けないし、老木ともなるとそこで数十年、数百年生きてきたわけですが、道路や水路、建物などの整備といった人為的な周辺環境の変化により衰退する樹木が増えてきました。

やりがいとは？

植物への愛着ですね。治療が成功したときには特に感じます。樹木の診断・治療は、適切な時機を逸してしまつと駄目なので、手遅れになるまでに効果的な処置を行うことが肝心です。



池上 成志さん (56歳・若狭町三田)